

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業を併用実施。

この演習は5～30回目を2グループに分け、各教員がローテーション形式で同時開講します。

《担当者名》○小林健史 橋本竜作

【概 要】

「言語発達障害学」で学んだ知識を基礎としつつ、事例に合せた適切な検査の選択、実施と解釈、それに基づく訓練目標の選択、そして訓練の実施という一連の流れに関する実践力を培う。特に検査の背景にある理論的枠組みと、検査中の観察ポイントを学ぶことで、支援のヒントを得る観察眼を養う。

【学習目標】

言語発達障害児や養育者に対して適切な支援を行うために、各種検査の実施を通じて言語発達障害に関する科学的知識を整理し、評価技術、基本的な支援プログラムの立案能力を身につける。

1. 各種検査や評価で用いられる用語を理解し、理論的枠組みを説明できる。
2. 各種検査をマニュアルに沿って実施できる。
3. 検査中の反応を適切に解釈できる。
4. 各種検査のプロフィールを作成し、適切に解釈できる。
5. 各種検査のプロフィールから得た解釈に沿って、支援目標を立案できる。
6. 立案した目標に沿った支援プログラムを作成できる。
7. 主体的にグループワークに参加する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス	言語発達障害学演習の概要、講義の進め方について説明する。 グループフレームの使用方法について学ぶ。	橋本竜作 小林健史
2	発達検査	津守・稲毛式乳幼児精神発達質問紙の概要について学ぶ。 S-M社会能力検査の概要について学ぶ。	橋本竜作
3) 4	発達検査	津守・稲毛式乳幼児精神発達質問紙の課題（検査項目に対する保護者の回答を参考に採点およびプロフィールの作成）を提出し、解釈について学ぶ。	橋本竜作
5) 6	発達検査 言語検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の概要について学ぶ。 PVT-Rの概要について学ぶ。	小林健史
7) 8	発達検査 言語検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の課題（保護者の回答を参考に採点およびプロフィールの作成）提出し解釈について学ぶ。 PVT-Rのビデオを視聴し、プロフィールを作成する課題を提出し解釈について学ぶ。	小林健史
9) 10	発達検査	新版K式発達検査の概要について学ぶ。	小林健史
11) 12	知能検査	田中ビネー知能検査 の概要について学ぶ。	橋本竜作
13) 14	言語検査	言語・コミュニケーション発達スケール (LCスケール)、国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査 の概要について学ぶ。	小林健史
15	言語検査	事前に配布した資料を基にLCスケールの領域別まとめシートを作成のうえ、提出し解釈について学ぶ。	小林健史

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
16 }	知能検査	WISC- /WAIS- の概要について学ぶ。	橋本竜作
17			
18	知能検査	WISCの課題（下位検査および指標に関するテスト）を提出し、検査の解釈について学ぶ。 WAISの実施場面に関するビデオを閲覧したうえで、課題（実施法に関するテスト）を提出する。	橋本竜作
19 }	言語検査	LCSAの概要について学ぶ。	小林健史
20			
21 }	認知発達検査	KABC- の概要について学ぶ。	橋本竜作
22			
23 }	言語検査	S-S法言語発達遅滞検査の実施法について学ぶ。	小林健史
24			
25 }	知能検査	田中ビネー知能検査 の実施法について学ぶ。	橋本竜作
26			
27 }	言語検査	LCスケール、LCSAの実施法について学ぶ。	小林健史
28			
29 }	知能検査	WISC- の実施法について学ぶ。	橋本竜作
30			

【評価方法】

提出物100%

【備 考】

教科書 ： 使用しない。

参考書 ： 藤田和弘 他 著 「長所活用型指導で子どもが変わる」 図書文化社 1998年
佐竹恒夫 他 著 「言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイド」 医学書院 2004年
熊谷恵子 他 著 「長所活用型指導で子どもが変わる Part2」 図書文化社 2000年
熊谷恵子 他 著 「長所活用型指導で子どもが変わる Part3」 図書文化社 2008年
大伴潔 他 著 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援プログラム」 学苑社 2008年
大伴潔 他 著 「特別支援教育における言語・コミュニケーションに困難がある子どもの理解と支援」 学苑社 2011年
玉井ふみ 他 著 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版」 医学書院 2015年
大伴潔 他 著 「アセスメントにもとづく学齢期の言語発達支援」 学苑社 2018年
大伴潔 他 著 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援：LCスケールを活用したアプローチ」 学苑社 2019年

【学習の準備】

- ・参考書「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版」の検査に関する章などを読み予習しておくこと。（20分）
- ・演習後は資料を精読し、専門用語・観察ポイントを中心に暗記すること。（20分）
- ・演習内容によって使用する教室が変わります。ガイドンスで確認すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。